

水稻害虫判定シート - ほ場で主要害虫を見分ける -

移植期～出穂期(春～夏)の害虫



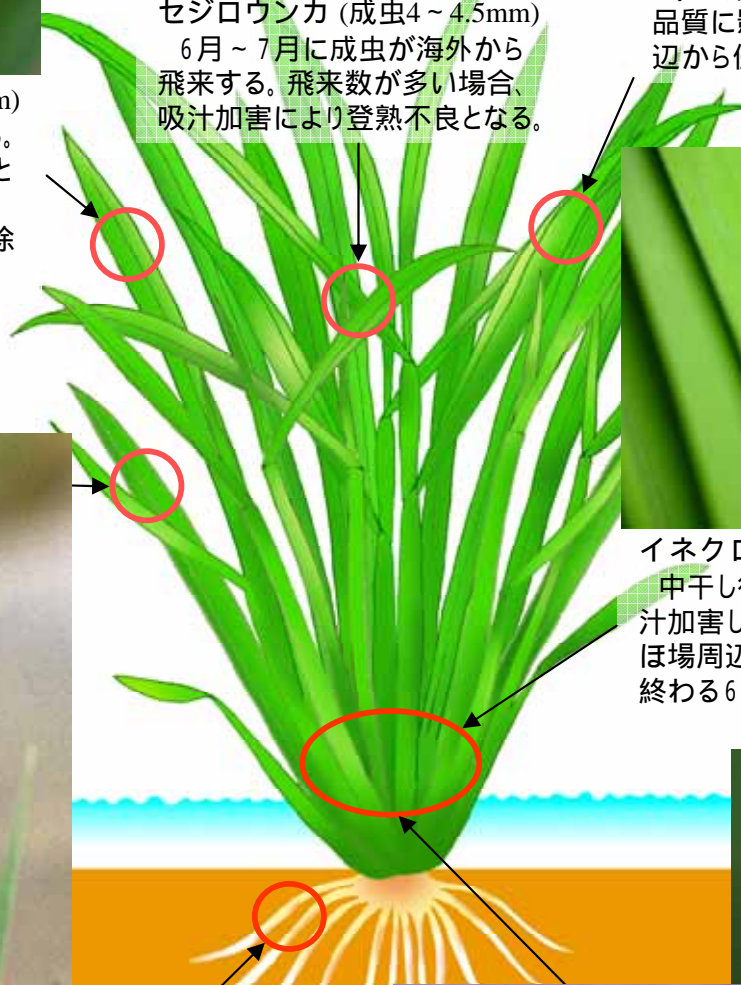
イネドロオウムシ (幼虫4～6mm)
幼虫が葉をかすり状に食害する。6月の気温が低く、曇雨天が続くと多発する。被害葉率20%以上か被害株率50%以上の場合は防除する。



セジロウンカ (成虫4～4.5mm)
6月～7月に成虫が海外から飛来する。飛来数が多い場合、吸汁加害により登熟不良となる。



コバネイナゴ (成虫30～40mm)
6月以降、成虫・幼虫が葉を食害する。止葉展開期以降の食害は、収量・品質に影響する。幼虫は、ほ場の周辺から侵入するので額縁防除する。



イネクロカメムシ (成虫6～9.5mm)
中干し後に水田に侵入し、株元を吸汁加害し芯枯れを引き起こす。被害はほ場周辺から始まる。本田への侵入が終わる6月下旬～7月上旬に防除する。



イネミズゾウムシ
(上:成虫3mm)
(右: 蛹 3mm)
田植え直後から成虫が葉を葉脈に沿って食害する。6月上旬以降は、幼虫が根を食害する。堤防や竹ヤブなどの越冬地の周辺は多発する。発生が多い地域では育苗箱施薬する。本田で成虫の発生が多い場合は、被害初期に額縁防除する。



ニカメイガ (右:成虫15～17mm 左:幼虫1.6～23mm)
幼虫が茎の内部を食害し芯枯れを引き起こす。年に2回発生し、6月下旬と8月中旬に被害がでる。発生が多い地域では育苗箱施薬する。本田で被害株率10%以上の場合は防除する。



出穂期～収穫期(夏～秋)の害虫



アカスジカスミカメ
(成虫5～7mm)



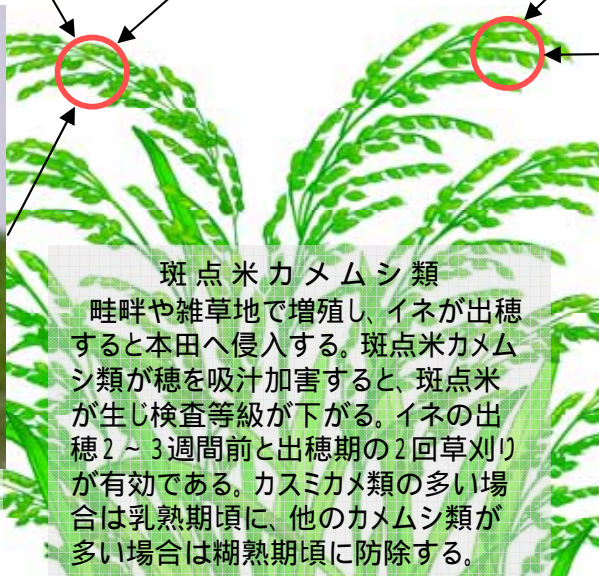
クモヘリカメムシ
(成虫16mm)



ホソハリカメムシ
(成虫9～11mm)



アカヒゲホソモドリカスミカメ
(成虫6mm)



斑点米カメムシ類
畦畔や雑草地で増殖し、イネが出穂すると本田へ侵入する。斑点米カメムシ類が穂を吸汁加害すると、斑点米が生じ検査等級が下がる。イネの出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りが有効である。カスミカメ類の多い場合は乳熟期頃に、他のカメムシ類が多い場合は糊熟期頃に防除する。



トゲシラホシカメムシ
(成虫4.5～6mm)



トビイロウンカ
(成虫4～4.8mm)
(上:長翅型 右:短翅型)



7月以降、成虫が海外から飛来する。7月上旬までに飛来した場合、吸汁加害により「坪枯れ」が生じる。病害虫防除所が発表する発生予察情報に注意する。



ツマグロヨコバイ
(上:成虫4.5～5.3mm)
(左:黄萎病刈株再生芽)

イネを吸汁加害する。出穂後に多発した場合はスス病も発生し、登熟不良となる。また、黄萎病を媒介する。黄萎病刈株再生芽の発生が多いほ場では育苗箱施薬する。